

日経リヴァイブは日本経済新聞をご購読の皆さまにお届けしています。

冬は北近畿で「まんぷく」紀行



2014年に舞鶴若狭自動車道の敦賀〜小浜間が開通し、北陸自動車道、名神高速道路、中国自動車道をつなぐ環状道路が完成しました。この環状道路が通る近畿北部と琵琶湖は古代から都に海の幸や山の幸を供給してきた和食のふるさとであり、数々の歴史の舞台でもあります。官民が広域連携して各地の「歴史街道」構想を進める歴史街道推進協議会は、この環状道路を「北近畿・琵琶湖 食と歴史の回廊」と名付け、各自治体や経済団体、民間企業などと連携して、観光の活性化を図っています。

周遊の楽しみが増す「食と歴史の回廊」へ

こ の回廊が結ぶエリアは、丹後松島や玄武洞など山陰海岸ジオパークの一部や鬼伝説の残る大江山、日本三景の一つ天橋立など数々の名勝を抱えます。しかし観光資源が広い範囲に点在していて、域内を周遊するシステムや地域間連携の不足が指摘されていました。また滞在時間の短い日帰り観光客が多く、地域経済への波及効果が限定的なことも課題でした。環状道路の完成によって各地からのアクセスの便が向上。周遊観光もやすくなったことを機に、旅行日数に応じたモデルコースの設定やスタンプラリーなどのイベントの開催、インバウンド推進に向けた10言語入りMAPの作成などの活動を通して、関西圏はもちろん、中部圏、首都圏、海外からの観光客やリピーターを増やし、エリアの活性化を図っています。

日 本海に面した若狭・丹後・但馬地域は、古代より大陸語り継がれています。江戸時代になると敦賀や小浜、但馬が米や海産物などの輸送手段である北前船の寄港地として栄えました。明治以降は舞鶴港が日本海防衛の要となり、戦後は敦賀港が引揚げ港として、このエリアは大陸との玄関口であり続けました。食では丹波の黒豆や栗、但馬牛など山の幸が有名ですが、海の幸も豊富。若狭湾は万葉集の時代から魚介類の宝庫として名高く、通称「鯖街道」を通じて日本海の海の幸が京都へと運ばれました。この時期には、冬の味覚の代名詞・松葉ガニや、関西の「年取り魚」としてお正月に欠かせないブリなどが旬を迎えます。

2 020年には北近畿にゆかりのある戦国武将・明智光秀を主人公にしたNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の放送も決まり、周遊の楽しみを増幅させる話題でもちきりです。雄大な自然と風土に加え食の魅力が増す冬は「北近畿・琵琶湖 食と歴史の回廊」を周遊し、お腹も心も「まんぷく」にしませんか。